

===== 目 次 =====	=====
「青島守備軍司令部」寄贈ドイツ図書と 旧制松山高等学校 1	図書館システム更新のお知らせ 10
学生にすすめるこの一冊 5	医学部分館からのお知らせ 16
附属図書館企画展 2005 10	インターンシップ研修 17
シリーズ電子図書館紹介③ 12	図書館サポーター活動報告 17
学術情報リテラシーシリーズ第 3 回 愛媛県内図書館 OPAC 14	附属図書館委員会 17
	図書館日誌 18

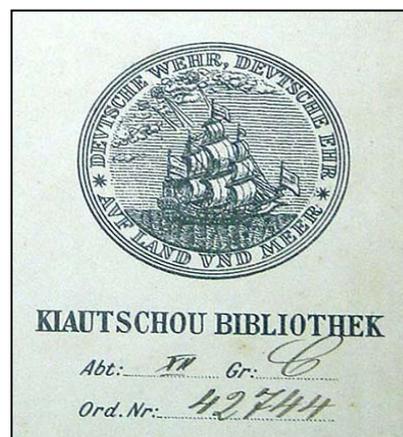
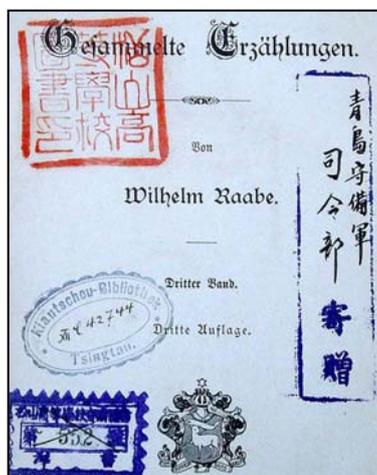
<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/>

「青島守備軍司令部」寄贈ドイツ図書と旧制松山高等学校

森 孝 明

今私の研究室に、ドイツ文字で印刷された古い本がある。本の中表紙には、「青島守備軍司令部寄贈」と筆書きしてあり、その横に、「松山高等学校図書印」の朱印が押してある。青島守備軍司令部が旧制松山高等学校へ寄贈した図書である。それだけではない。内表紙にドイツ軍

所有を示す帆船図票が貼ってあり、中表紙には "Tsingtau・Kiautschou-Bibliothek"(青島・膠州図書館)とドイツ語のスタンプが押してある。この本は、元は中国の青島にあった膠州図書館の蔵書であり、その図書館は青島を租借地としていたドイツ軍の所有であったのである。



旧制松山高等学校を継承した愛媛大学がその蔵書を引き継いだのは当然だから、蔵書が私の研究室にあってはさほど不思議ではないが、青島のドイツ軍所有の図書館蔵書が松山へ来たのはなぜだろうか。幸いにも、愛媛大学附属図書館に保存されていた『寄贈図書登録番号原簿』（松山高等学校図書課）を調べたところ、そこに、登録年月「大正11年9月8日」、寄贈者名「青島軍司令部」と記載され、384冊に及ぶドイツ語の書名の並んでいることが確認できた。私の研究室にある本も、確かに登録されていた。

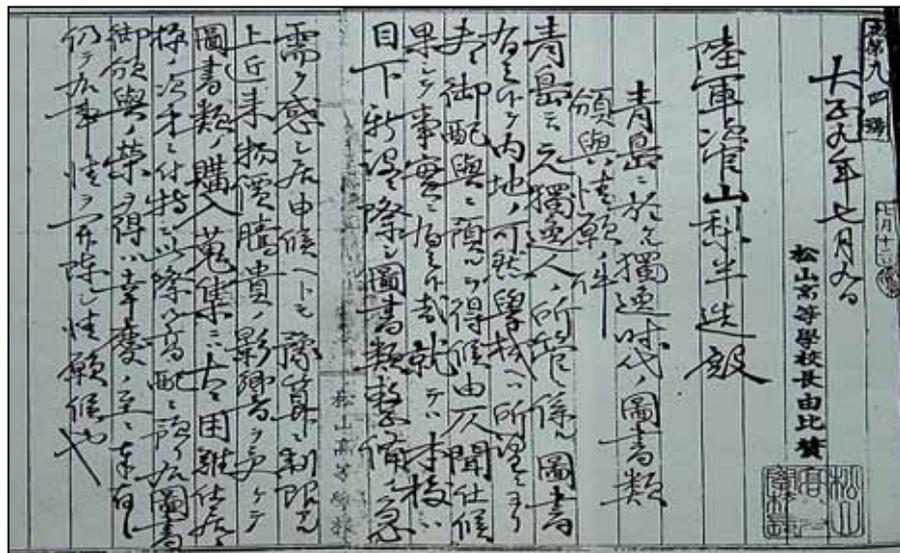
ことの始まりは第一次世界大戦であった。大正3年(1914)8月初めに第一次世界大戦が始まるや、これに連動して日本はドイツと戦争に入り、わずか77日間で日本軍が青島を攻めてドイツ軍を降伏させた。日本軍は「青島守備軍司令部」を置き、ドイツ軍所有「膠州図書館」蔵書及び他のドイツ官庁等所有の書籍・文書26000冊以上を鹵獲した。書籍は以後青島守備軍の手で調査され、その大部分が日本へ輸送されたのである。

この鹵獲書籍に関する手がかりは、防衛研究所図書館にある『大正八年以降青島鹵獲書籍ニ関スル件』と題された一連の書類にある。そこ

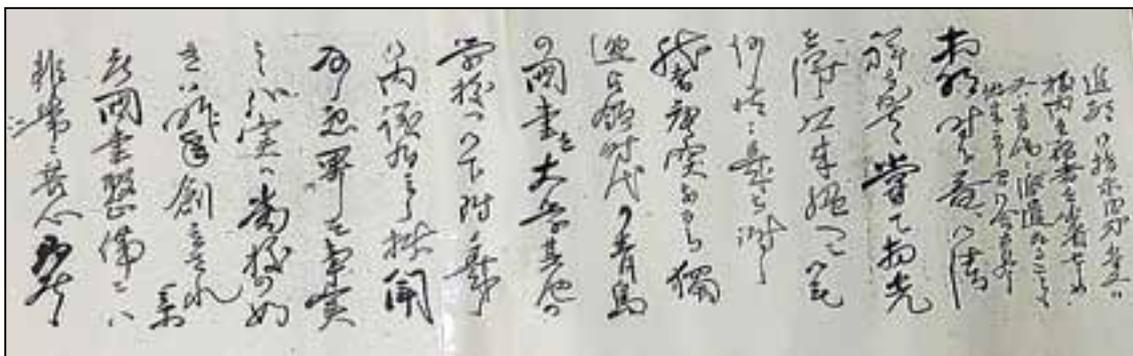
に、東京帝国大学、東北帝国大学、松山高等学校、上海東亜同文書院及びドイツ大使館が陸軍省に出した鹵獲書籍に関する要望書が残っているのである。陸軍省はこれらの要望を睨みながら独自の計画を立て、実際には青島守備軍が綿密な目録を作成し、分配計画を立ててこれを実行した。書籍は、最終的に大正11年2月に決定した「鹵獲書籍寄贈分配表」に基づいて、33箇所を超える寄贈先に分配送付され、大正11年7月31日にその作業は完了した。

さて、松山高等学校校長由比質は、大正9年7月9日、陸軍次官山梨半造宛に鹵獲図書「分与」の公的請願書を出した。しかし不思議なことに、由比校長は同じ日付の手紙をもう1通、巻紙にしたための「親展」の封書を、同じ陸軍次官に宛てて送っている。なぜそんなことをしたのか。「親展」書簡には、かつてお会いしたとある。2通目のねらいは、表からの公的書簡だけで足りず、相手の懐に飛び込んで、願いを叶えて欲しい思いを伝えることだったと考えられる。校長は追伸を書き、更に冒頭の余白にまで「追啓」を書き加え、自ら陸軍省へ行ってもいいし、青島へ学校の事務者を派遣してもいいとまで書いているのである。

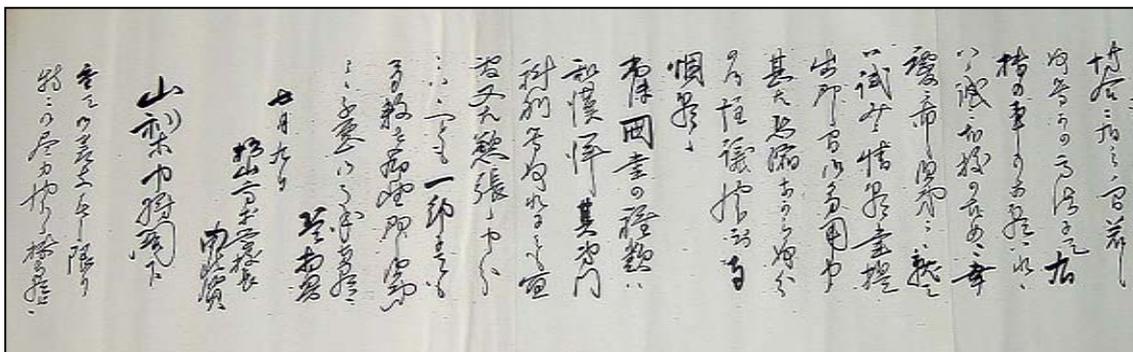
(公的請願書)



(「親展」書簡)



(「親展」書簡 続)



手紙の日付も微妙である。守備軍司令部が「鹵獲書籍寄贈分配表」を作成して陸軍省へ送ったのは大正9年2月27日であったが、陸軍省はそれから寄贈先の検討に入り、まだ結論を出していない時だったからである。実は「分配表」の寄贈先の中に、すでに松山高等学校は第八高等学校の次に書かれ、全12高等学校中、山口高校に次いで2番目に多い523冊の配分になっていた。陸軍省が修正案を作り終えたのは、5カ月後の大正9年7月23日である。しかも修正案には、水戸高等学校が寄贈先に追加されていた。陸軍省が寄贈先の変更をするかもしれないこと、7月中に結論が出そうなこと、高等学校をどうするかが話題になっていることを校長が知ったとしたら、どうだろう。校長は7月9日に、陸軍大臣宛にではなく、嘗て会ったことのある陸軍次官に請願書を書いたのである。彼は陸軍省の動きを知っていたのではないだろうか。校長の2通の書簡に答えて、陸軍次官は「拝復」の返書を校長に送っている。公的文書として下書きが保存されているのである。

由比質は教育畑一直線の経歴を有していて、陸軍次官山梨半造と結びつくような気配はどこにもない。しかし、由比質には、十歳年上の

兄、陸軍軍人由比光衛がいた。彼は山梨半造より四歳年上だったが、二人の軍歴は極めて似ており、陸軍大学校では二年間一緒であったし、日露戦争では二人とも参謀長として身近にいた。更に、青島守備軍の最高責任者、最後の第五代青島守備軍司令官に、陸軍中將由比光衛が就いた。『大正八年以降青島鹵獲書籍ニ関スル件』一卷にまとめられた「鹵獲書籍」に関する全体は、まさに彼が着任した年に始まったのである。青島守備軍司令部作成の「鹵獲書籍寄贈分配表」は、司令官監督のもとに準備されたはずである。図書がないに等しい状態で苦勞している弟を知っていたであろう兄が、司令官として大量の鹵獲図書の分配計画に深く関与する中で、弟に何らかの情報を与えた可能性は、なかったとはいえないだろう。陸軍省の行動には守備軍司令官といえども口をはさむことは出来ない。弟に請願書を書くように勧めたのは、兄だったかもしれない。かつて弟を学友の山梨半造に会わせたのも。

それにしても、「本校ハ目下新設ニ際シ図書類整備ノ急需ヲ感ジ居リ候エドモ、予算ニ制限アル上近来物価騰貴ノ影響ヲ受ケテ、図書類ノ購入募集ニハ大イニ困難シオリ候」と訴える由

比校長の言葉は、何か切羽詰ったものを感じる。このとき松山高等学校はどんな状況であったのだろうか。大正8年4月15日に初代校長に任命された由比質(京都三校教授)は、早速松山市公会堂を借り受けて仮校舎とし、第1回入学試験を松山中学校校舎で実施し、全国からの志願者986名の中より定員160名を決定し、二階建て松山市公会堂の仮校舎内部に、4教室、教官室、校長室、事務室、講堂兼図書室を設け、かくして大正8年9月11日に第1回入学式を行った。しかし、松山高等学校の船出は決して順調ではなかった。高校設立は国が決めたものの、設立経費は地元負担だったのである。何もかも借り物づくしの中で、一日も早く校舎を建て、学生寮も建て、図書室も整え、図書も充実させて、学生たちを勉学に集中させてやりたい由比校長の思いを誰か知るであろう。学校予算に余裕のあるはずがない。仮校舎の図書室にいったい何冊の書物が準備されていたのだろうか。

由比校長が請願書を書いたのは、高校創立1年をまじかにした大正9年7月9日だった。それは、持田に新校舎が完成し、8月23日に公会堂の仮校舎から引越しをする目前であり、9月1日には2回目の入学式を迎えて総数316名の学生たちとなる日が迫っていた時であった。「図書ノ種類ハ和漢洋ソノ専門科別等何レニテモヨロシク」、また「欲張り」をいうようだけれども、「一部ニテモ多数ヲ希望イタシ候」と、校長は嘗ての面識を頼りに、同じ日に二通もの書簡を書いた。これに対する陸軍次官の返事は、「ある程度まではご希望に応じ得る」として、その予定は「523冊」であった。待望の図書が学校に届いたのは、それから2年後の大正11年9月のことである。冊数は384であった。2年前の予定数より百冊以上減っている。それはおそらく、大正9年4月に設立された水戸、山形、佐賀の3高等学校が、新たな寄贈先として追加されたことと関係していると思われる。全15校の冊数が「同一程度」になるように分配されたはずだからである。

由比校長は寄贈図書の礼状を、陸軍大臣になっていた山梨半造宛に書いた。「日独戦役記念ノタメ青島守備軍司令部ニオイテ鹵獲サレタル書籍中左記ノモノ同司令部ヨリコノホド当校ヘゴ寄増サレ候段本校ノタメ幸慶ノ至リ

ト幸イニ存ジ候」。届いた冊数が予定より少なかったにしても、図書を待ち望む大勢の学生達を抱えていた校長にすれば、努力のかいがあった喜びを抱いたであろう。「本件ニ関シテハ種々御斡旋下サレ今日アルヲ将ニ御厚意ト有難ク幸ヲ深謝致候」。

青島から届いたドイツ書籍は、現在愛媛大学図書館の松山高等学校図書書庫に静かに眠っている。「右書籍ハ永ク本校ニ保存ノ上研究ノ資料ニ供スベク候」。彼は校長に任命されて初めて松山に来たとき、県庁で記者達に語っている。高等学校が「松山に出来るのであれば、愛媛県否四国の高等教育が普及される訳で」、「四国大学も設立するという按配になりたいものです。」(『海南新聞』大正8年4月30日) 高知出身の彼としては将来の姿を大きく四国大学と表現したのであろうが、松山高等学校は愛媛大学に発展継承された訳である。由比校長の言葉通り、寄贈図書は永く保存され研究の資料として役に立った。

(書庫内の松高図書)



ところで、愛媛大学附属図書館長室には、かつて四曲の大屏風があった。「図書館だより」第1号に記された図書館長蒲池文雄教育学部教授によれば、中国山東省泰山の経石谷の岩面に6世紀半ば頃彫られた金剛般若経の文字の拓本を、由比校長の時に組み合わせて屏風に作ったという。この拓本文字は、陸軍大将となった青島守備軍司令官由比光衛が日本へ持ち帰り、松山高等学校長の弟に贈ったものであった。その屏風は今、図書館3階の貴重図書室に保管されている。

(もり たかあき 法文学部人文系担当学部長)

学生にすすめるこの一冊 ～ 特集 ～

(図書館ホームページで紹介しております)

学生の皆さんが図書に関心を持ち読書を身近なものとしていただくため、先生方に図書を推薦していただきました。また、併せて職員による図書紹介も掲載しました。

請求記号のある図書は、図書館に配架されています。また、所蔵していない図書は可能な限り購入・整理して開架室に備え付ける予定です。

宮崎幹朗 先生 (法文学部・総合政策学科)

西 耕生 先生 (法文学部人文学科)

『スポーツを「読む」』

重松清著

集英社, 2004 (集英社新書)

重松清『スポーツを「読む」』(集英社新書)という本があります。重松清は『エイジ』や『ビタミンF』などを書いている小説家ですが、この本はスポーツ・ノンフィクション作品を批評するものです。

この本はさまざまなノンフィクション作品を取り上げながら、「スポーツを語り、人間を描く」という行為について論じています。この中には、私が忘れることのできないいくつかの本も取り上げられています。「江夏の21球」を含む山際淳司『スローカーブをもう一球』(角川文庫)や、沢木耕太郎『敗れざる者たち』(文春文庫)、長島茂雄と天覧試合の時代を描いた佐瀬稔『天皇と長島茂雄』(祥伝社、旧題『天皇と背番号3』)など、ただ単にスポーツの勝敗だけを振り返るのではなく、その人が生きてきた時代を踏まえながら、スポーツや人間を語る作品が取り上げられています。こういう形で時代や人間を語るができるのだということを皆さんに知ってほしいと思います。

この本だけではなく、この中に取り上げられているさまざまな本をぜひ手にとってください。中には、開高健『オーパ!』(集英社文庫)や最相葉月『東京大学応援部物語』(集英社)などちょっと変わった作品も含まれています。草野進『世紀末のプロ野球』(角川文庫)も野球の好きな方にはぜひ読んでほしいですね。

多田智満子歌集『遊星の人』

多田智満子著；高橋睦郎編輯

邑心文庫, 2005

おとし1月23日に永眠された著者には、「血のつながらない、文芸詩歌上の弟」高橋睦郎氏による編輯をへて三周忌に刊行されたこの歌集に先立ち、告別の弔問者に配られた遺句集、著者自らの命名になる『風のかたみに』(私家版)を附録として一周忌に公刊された遺詩集『封を切ると』(書肆山田, 2004年1月23日発行)もある。私事に涉るけれど恩師への追悼文集さえ十分に綴れなかった紹介子は、故人に対する高橋氏の敬愛の深さに愧じ入るしかない。ただ、遺された作品に接するたび、知らず識らず考えをめぐらせている自分に気づかされる。

砂は砂につづく／水は水につづく／

時は時に／永遠は永遠に

(『長い川のある國』書肆山田, 2000年
8月31日初版第一刷)

草の背を乗り継ぐ風の行方かな

(『風のかたみに』)

大鳴門みどりの潮に揉まれたる

若きわかめの莖の齒ごたへ

みどり濃きこの遊星に生まれきて

などひたすらに遊ばざらめや

僧院は高き圍ひをめぐらして

「薔薇の名前は薔薇に問ふべし」

(以上『遊星の人』所収)

ナイル川を主題とする生前の詩集のプロローグ。遺句集の掉尾をかざる季語の無い句。遺歌集に収めるあれこれ。普段なにげなく使っているのと同じ言葉が、熟慮して選びとら

れた結実として築きあげる世界。日常のそれと地続きである言葉が発揮する力の、大きさや広さや深さ。文学の意義は、言葉の力が余すところなく牽き出された具体のさまざまに通じて触発されるところにあり、虚構とは、現実に反する概念でなくたんなる絵空事ではないのだ、と思ひめぐらすのである。

文学の愉しみが作品を形づくる言葉とともに在ること、すなわち「読む」という主体的営為においての外には無いことを、この夏、保坂和志『小説の自由』（新潮社、2005年6月30日発行）に接することで痛感したにもかかわらず、多田智満子氏について余計なことを記してしまったのかもしれない。伝記的事実はひとまず措いて、この作家の言葉に直接することを、なにより切望するものである。 [平成十七年小雪]

福田安典 先生（教育学部・国語教育）

『馬琴の大夢 里見八犬伝の世界』
信多純一著
岩波書店、2004

滝沢馬琴の名や『里見八犬伝』の書名ぐらいはどこかで聞いたことがあるかもしれない。江戸時代の小説を代表する大作である。

ところが、この大作は馬琴が心血注いで年月を費やして書いた長編であるために、研究者といえど、その全容解明に本格的に取り組んだことはなかった。

『里見八犬伝』には和漢すべての知識が、まるで入り乱れたパズルのようになりがちだが、その一見入り乱れたかに見えるパズルは、馬琴の周到な筆遣いと構成力によって、実は壮大な世界をわれわれに見せてくれるようになっているということを解明したのが本書である。

本書は、『八犬伝』の挿し絵から文章に至るまでの「謎解き」を中心に、最後は馬琴の作家精神の襞（ひだ）にまで及ぶ、まさに『八犬伝』の全容が解き明かされて、読む者を思わず引き込んでしまう。但し、本書だけでは「馬琴知らずの馬琴通」になる可能性もあるので、同時に、難しいかもしれないが原文の『里見八犬伝』にも挑戦することを望んでいる。

岡村 茂 先生（教育学部・政治学）

『電子の巨人たち』

Michael Riordan, Lillian Hoddeson 著；
鶴岡雄二，ディーン・マツシゲ訳
ソフトバンク，1998

情報化が当たり前の時代になった。

1994年8月、新聞の小さな催しの欄に注目した。インターネットの研修会が有楽町で行なわれるという告示であった。インターネットという言葉は知っていたが、まだ実際にそれを眼にしたことはなかった。コンピュータをいじり始めていた友人達と早速参加した。その会は実は小中高等学校の先生達の研修会であったが、北は北海道から、南は沖縄まで、全国の大学の研究者が期せずして参集することになり、受付の方も驚いていた。インターネットの実用化開発にたずさわったアメリカ人女性研究者の講演を中心に、NTT研究部門の方々のボランティアによって研修会はきびきびと運営されていた。NASAのサイトから発信された木星の映像には息を呑んだ。新しい時代の息吹がそこに感じられた。その後の、Webの世界の発展（もちろん色々な問題をはらみつつではあるが、…）については、今更云々する必要はないであろう。今日では、私に関係しているフランスの地域研究も、ネット上のデータやメールなどの便利な機能なしにはもはやあり得ないという状況である。

さて、日頃、物理学や科学一般の歴史的な発展傾向に素人ながら興味を持ってきたのだが、愛媛大学の授業でも、情報関連の社会情報論においては当然として、その他の純文系と見られている分野の授業にも積極的に科学史の知識を反映させるようにしている。そうした授業の為の下調べの中で出会った文献が、リオードン、ホーデソン両氏の手になる『電子の巨人たち』（ソフトバンク、1998年刊）である。

この文献は、量子力学の発展がトランジスタの大発明に至る経緯を実に懇切に、しかも面白くたどってくれている。要するに、前世紀の半ばに、我々は「核」と「トランジスタ」の時代に突入したのだというポイントが、何の数式も使わずに説得的に展開されているのである。歴史的な出来事は一つ一つが

ばらばらなのではなく、総合的、重層的、系統的に起こっているのだということ、これほど見事に示してくれている文献は少ないのではないだろうか。

先日、気になっていた英語版の元本も手に入れることが出来た (Michel Riordan/Lilian Hoddeson, *Crystal Fire: The Invention of the Transistor and the Birth of the Information Age*, WW Norton, 1997)。社会情報論の古典と目されているマクルーハン『メディア論』みすず書房 1987年 (Marchal McLuhan, *Understanding Media*, Gingko Press, 1994) と共に、社会科学的な構想力と英語力を鍛える為に、学生院生諸君に、これらの邦訳や原本を一読されることをお勧めしておきたい。

坂口 茂 先生 (理学部・数学科)

『K2に憑かれた男たち』

本田靖春著

文芸春秋, 1979

私は登山好きの一人としてこのK2登山の映画を見て感動したことがあって、後にこの本に巡り合った。その頃、私は東京のある大学の大学院生で、ある社会人山岳会に所属していて週末や連休にはよく山に出かけた。

この本には、1977年に世界第二の高峰K2に世界で第二番目の登頂に成功した極地法による日本のカラコルム大遠征の組織登山について、この参加者でも登山家でもない著者の視点で、その組織構成、登山許可取得や資金集めの段階から登頂までに至る登山家個人個人の人間模様が生き生きと描かれている。多くの隊員個人個人は結果としてほんの一部の隊員の登頂のために組織の一つの歯車として働いていて、その様子は高度成長期の会社員に対比されている。その後、ヒマラヤやカラコルムの登山の方法は大遠征ではない少人数のアルペンスタイルによる無酸素短時間登山の時代を迎えた。高度成長後の現在の日本社会も組織の歯車の一つとして埋没しない個人の時代を迎えている。

著者の最後の文章を引用したい。「登山というのは、最終的に個人のスポーツではないのか。実社会の構成原理を遠征隊に移しかえて、

それを八千メートルの高所に運び上げたところで、今日的意義は認められない。門外漢の勝手な言い草とお叱りを受けるかもしれないが、私が登山家に切に望むのは、俗界では見られない真に自由な人間の魂の輝きであり、非妥協的な自己主張なのである。」

一数学者として私はこの文章において、「登山」を「数学」、「スポーツ」を「自然科学」、「登山者」を「数学者」等に置き換えてみた。

市川裕之 先生 (工学部・電気電子工学科)

『即興詩人』

アンデルセン著 ; 森鷗外訳

岩波書店, 1969 (図書館 開架図書)

上巻 080.4||I1||96(1)

下巻 080.4||I1||96(2)

原作は童話で有名なあのアンデルセンである。中学か高校の国語の授業の日本文学史の単元で、森鷗外の訳文はアンデルセンの原作よりも素晴らしいと評されている、と習ったことがいつまでも頭に残っていた。ようやくその本を手にした大学4年生の時のこと、はたして、雅文調の文体は美しかった。小説の内容自身はもはやあまり受けることのないメロドラマであって、欧州でも評価されなくなっていたのだが、日本では鷗外の名訳により長く人気を博しているのだと聞いていた。まさに流れるような文章に引きずり込まれて、岩波文庫の上下二巻をあっという間に読んでしまった。

本当ならば、恋に恋する高校生の頃に読んでいて貰えれば、大学生の日本語に苦しむ私達の仕事も随分と楽になると思うのだが。

橘 燦郎 先生 (農学部・応用生命化学)

『キノコとカビの生物学』

原田幸雄著

中央公論社, 1993 (中公新書)

本書は、秋になると市場に出回るシイタケやマイタケなどのキノコの分布や歴史、人工栽培などが紹介されているだけでなく、植物に害を与えるイネいもち病菌やリンゴ赤星病菌などの植物病原菌の生態とその防除法など

について幾つか例をあげながら、読者が興味をもてるように書かれている。また、植物病原菌やペニシリウム菌やアスペルギルス菌などのカビは植物や人間にとって害をなす場合もあるが、一方では抗生物質、ペニシリンや植物ホルモン、ジベレリンなど我々にとって有益な物質（薬）の生産例をあげている。さらに、害菌を菌で退治する生物防御の方法や植物の生長と菌根菌との関係などについても面白く書かれている。キノコやカビに興味を持つ学生さんやこれらを勉強しようとする学生さんは一度読むことをお勧めします。

『くらしと地球環境』

犬飼英吉著
丸善, 2000

本書は、地球の成り立ちや構造、地球上の生命の誕生についてばかりでなく、文明が発展してきたことにより発生した環境問題についても書かれている。また、それにより人類が地球上で環境と共生しながら生きていくことの重要性について書かれている。さらに、電磁波や放射線に包まれた地球環境が人類におよぼす影響や文明の発達により作り出された環境ホルモンについても書かれている。これらの地球環境問題を通して、地球の大切さ、地球環境の大切さを知ることができるので、環境問題に関心のある学生さんやこれからこれらを勉強しようとする学生さんの入門書として一読をお勧めしたい。

酒井俊典 先生（農学部・地域防災学）

『大学で勉強する方法』

A.W.コーンハウザー著 ; 山口栄一訳
玉川大学出版部, 1995
(図書館 開架図書 337.15 / KO)

現在、大学での教育に対する問題点が指摘され、教育改革、FD等のプログラムの重要性が述べられている。そのような中、本著は、高等学校とは異なり、大学で学生が何をすべきなのかを、極めて簡潔に著した、学習手引き書である。本著では、大学での勉強にどのような意味があるかに始まり、勉強するための条件、勉強したこ

とをどう使うか等、各項目に分け、極めて簡潔に書かれている。高校時代の詰め込み教育ではなく、効率的な勉強方法を学び、使える教育を目指すことの重要性を再認識する上で役立つ良書で、一読をお勧めする。

河野建二（図書館サービス課長）

『掃除道』

鍵山秀三郎著 ; 亀井民治編
PHP 研究所, 2005

ある本屋さんの1階で、「掃除道」、「掃除」に「道」を付けた奇妙な書名に、思わず立ち読みをした。結果買って帰ったが、一気に読んでしまった。宣伝には、「掃除をすれば、荒れた学校が変わり、赤字の会社が黒字に変わり、社会の犯罪も減少する。」とある。その変化の実例がたくさん載っている。まるで「掃除」が「魔法の杖」になったようだ。

実例の中でも迫力のあるのは、便所の掃除である。素手で裸足が原則とある。但し、ニューヨークでは、注射針が落ちている可能性があるので、例外とあった。

「掃除哲学の本」、いかがでしょうか。

松本秀毅（学術情報課専門役）

『状況倫理ノート』

小原信著
講談社, 1974（講談社現代新書 357）

<状況倫理>当時学生だった私の目に飛び込んできたこの言葉の衝撃は強烈だった。

“人生とはどうあるべきか”などと大上段に振りかざした定義の中で、何かもやもやしたものを感しながら文学青年を気取っていた私は、「倫理」という哲学的な響きに陶酔的な気持ちになった。カバーの表紙にはこう書いてある。“うそをつくことはよくない。しかしガンであることを知れば確実に死期を早めるであろう。患者を前にして医者は事実を告げるべきであろうか。現実の状況の中で一般論は通用しない。状況を判断し、そこでもっともふさわしい行動をとることがつねに求められる。”

30年ぶり（光陰矢の如し）にあらためて

読み返してみた。われわれの生きるすべてのものが相対的である。だが、絶対というものを探求に絶望してしまうことなく、自己にとって<主体的な真理>を見出し、それに満足すればいいのである。またこのようにできる人だけが、限界状況的なわれわれの人生のただなかにあっても、幸せをつかむことになるのである。

状況にのまれ流されることなく、状況をみつめ、それにふさわしい行動をする意志の自由はいつも自己にある。

小原 信氏には、「孤独と連帯（中公新書）」「退屈の時代（知的生き方文庫）」など、知と個性を磨く著書が多数ある。趣味が「現実逃避」という貴方、是非一読されたし。

橘 紀子（学術情報課学術情報チーム部長）

『火車』

宮部みゆき著

新潮社、1998（新潮文庫）

（図書館 開架図書 913.6 | MI）

文庫本になったのは 1998 年ですが、ハードカバーの初版が発行されたのは 1992 年。

10 年以上も昔に出された本であるにもかかわらず、その抱えるテーマが全く古くなっていないことに驚かされます。

失踪した親戚の婚約者を捜すことになったひとりの刑事が、その女性の足跡を追っていくうちに思いもかけない事実が分かります。追っている女性は全くの別人だった。彼女に関わった人物たちによって、彼女がどんな人物で、どんなことをしてきたのかが、徐々に明らかにされていきます。

多重債務、カード破産、自己破産。その泥沼にはまってしまったひとりの女性が、自分の存在を消して他人として生きようとする。彼女はいったい何を求めたのか？

多重債務などの問題は、何もお金にだけではない人だけの話ではありません。普通の人でも気がついたら巻き込まれてしまう可能性のあるものです。金融会社のCMが至る所で流れ、どのお店に行ってもクレジット機能のついた会員カードをすすめられる現在、あの当時よりもさらに巻き込まれる危険性は高まっていると言っても過言ではないでしょう。

この物語はフィクションですが、もしかしたら身近で起こるかもしれない、それどころか自分も当事者になる可能性もある物語だと思います。

学生の皆さんの読書意欲向上に向けて！

★ 教員の先生方へ

・学習上の必読書や教養を高める図書の推薦文・書評の寄稿をお願いします。

★ 愛媛大学学生の図書利用状況

中国四国地区国立大学図書館一人当たり年間貸出冊数（平成 15 年度）

日本の図書館 2004（日本図書館協会）から

図書館名	学生数	学生年間貸出冊数	学生 1 人当たり年間貸出冊数
鳥取大学	6,314	42,000	6.65
島根大学	6,494	67,000	10.31
岡山大学（中央館）	14,464	87,000	6.15
広島大学	15,745	173,000	10.99
山口大学	11,020	99,000	8.98
徳島大学	7,956	60,000	7.54
鳴門教育大学	1,050	28,000	26.67
香川大学	7,096	47,000	6.62
愛媛大学	9,836	73,000	7.42
高知大学	5,742	40,000	6.97
（参）松山大学	6,031	40,000	6.63



附属図書館企画展（開学記念日事業）2005

「愛媛県における明治の新群像」―世紀堂文庫―の世界

愛媛大学図書館では、開学記念日事業として、11月11日から17日までの1週間、教育学部・法文学部・地域創成研究センター共催で地域開放事業の一環として、基調講演・シンポジウム・展示会「愛媛県における明治の新群像 ―世紀堂文庫の世界―」を開催しました。

1) 世紀堂文庫

日本の文化史の空白を埋めるような人物でありながら、研究の立ち遅れから見過ごされてきた人物がいます。菱田正基はその一人です。彼自身の名をもじって構えられた中国・旅順の「世紀堂」というサロンには、文人たちが集い異境のもとで新たな文化を形成していました。

愛媛大学では、俳句や絵の才に恵まれ、豊かな交流を持ちながら、これまで光が当てられなかった正基や交流のあった人物による書や絵画などの未公開資料を集め「世紀堂文庫」と名づけました。愛媛県における明治の新群像を探る新たな文化財です。

2) 「菱田正基」

菱田正基（1884-1952）は、松山藩士菱田中行の子息。菱田家は、正岡子規が常磐宿舎にいたときの寮長内藤鳴雪や、松山市の市章の作成者で画家の下村為山と縁戚関係にあります。いわば近代愛媛の文化のもう一つの発信地といってよいのかもしれませんが。父の菱田中行は、あまり知られていませんが、四国に初めてキリスト教をもたらした人物として注目されています。その子息である正基は、キリスト教と教育に当初は関心を持ち、愛媛師範学校を卒業後、満州旅順で尋常小学校の教師となりました。その意味では愛媛大学の同窓でもあります。正基の幼少の頃、安倍能成と友達で、長じては徳富蘆花との交遊が知られ、また、娘が桜井忠温の子息と結婚したために、忠温とも交遊がありました。



【ポスター】

3) 基調講演・シンポジウム



日時：11月11日（金）13:30 - 15:00
場所：愛媛大学総合情報メディアセンター メディアホール

基調講演

川岡 勉（愛媛大学教育学部教授）
「菱田正基の人と思想 ―徳富蘆花との交流を中心に―」

今野 日出晴（愛媛大学教育学部助教授）
「植民地のなかの菱田正基」

シンポジウム

司会 福田 安典
（愛媛大学教育学部助教授）

パネリスト

加藤 国安（愛媛大学教育学部教授）
奥定 一孝（愛媛大学教育学部教授）
高橋 俊夫（世紀堂文庫寄託者）

4) 展示出展

今回出展した 28 点の中で注目される資料を紹介します。

* 「世紀堂」 扁額



菱田正基は旅順で文化サロンを形成し、「世紀堂」と名付けていたらしい。この扁額は正基と縁戚関係にあり、俳画で有名な下村為山の筆によります。

* 柿図 (下村為山)

下村為山は特に柿の図が有名であるが、この柿図はやはり絵心のあった正基に為山が贈ったものと言われています。

為山は正基にしばしば絵の手ほどきをしていたことが知られています。



【柿図】

“霧晴れて

大なる富士や

まのあたり “

* 水野広徳短冊 (正基 絵)

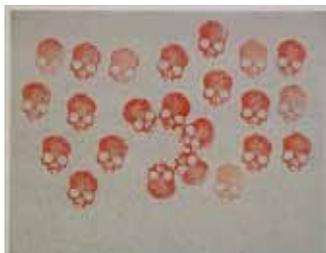
反戦の軍人として知られる水野広徳と菱田正基の絶妙のコラボレーション。

晩唐の漢詩人曹松の七言絶句「一将功成万骨枯」によって、広徳が「一将功成」と書き、絵をよくした正基が旅順の「表忠塔」の絵を描き、反戦のメッセージや自身の運命を示しています。



【短冊】

* 徳富蘆花書状



【乱打された髑髏印】

蘆花から正基への書状に同封されていた書状。1913年に正基から蘆花に送った髑髏印が乱打されている。この無造作に見える乱打の形にたくされた意味は？

徳富蘆花は明治を代表する文学者です。

『不如帰』で一躍有名になった徳富蘆花は、キリスト教に基づく反権力主義的な言動で異様な人気を集め、多くの若者が蘆花に手紙を出し、人生の悩みを相談していました。その一人が菱田正基です。愛媛大学「世紀堂文庫」所蔵の今回の展示書簡は、その正基のファンレターに蘆花が書いた返事です。

5) 参加・来場者



会場では、来賓として菱田正基のご長女をお迎えし、資料を提供された市民の方にもシンポジウム

に出席していただく一方、子規会・伊予史談会等の郷土史に携わる多くの方が参加されました。新聞報道などで掲載されたこともあり、図書館展示ホールでは連日大勢の一般来場者や学生で賑わい、延べ300人余が参加・来場されました。

5) 展示を終えて

市民の方から「地方の文化のすばらしさをあらためて実感し、次回の企画を楽しみにしています」「資料が豊富でわかりやすかった」「大変面白かった。有意義なシンポジウムだった」「これを機に図書館をもっと利用させていただきます」といったたくさんの声があり、地域住民の大学に対する期待の大きさや大学図書館に対する関心の強さを感じられました。

現在、こうした企画展示は、多くの大学図書館で取り組まれています。市民の資料提供やシンポジウムのパネリスト、生涯学習関係者の参加といった地域との交流の場としての今回の試みは、大学図書館が地域と更なる文化交流を図る「サロン」としての一面を担い、その役割を果たしていく必要性を強く確信するとともに、益々の拡充・発展に向けた企画の重要性をあらためて痛感しました。

(文責 学術情報課専門役 松本 秀毅)



シリーズ 電子図書館紹介 ③ ～デジタル散歩道(喫茶去)～

<http://www.lib.ehime-u.ac.jp/Denshi/index.html>

今回は、「西條誌稿本」「江嶋家文書」の郷土資料の魅力を紹介しました。最終回は、図書館が所蔵する他の貴重資料について紹介します。まだまだ、お宝があります。

1) 「近世絵画」－豪放な墨竹画－

近世、吉田蔵澤ほかの文人画 11 点を紹介、蔵澤の「墨竹画」は松山の宝といわれ、昔から珍重されてきました。正岡子規や夏目漱石もこの「墨竹画」をこよなく愛しています。

右の画は、蔵澤 77 才の時自然の生命の雄大な姿を余すことなく描いた彼の芸術の真髄を伝えた作品です。「句碑めぐり」でも、紹介しています。

「冬さひぬ蔵澤の竹明月の書」子規
「蔵澤の竹を得てより露の庵」漱石



【墨竹画】



【多田満中トップページ】



幸若舞とは？
奈良絵本とは？
満中とは？

幸若舞は、中世から近世にかけて、能と並んで武家達に愛好された芸能です。幸若舞に「敦盛」という曲があります。

・人間五十年、下天の内を比ぶれば、夢幻の如くなり・

織田信長は、「敦盛」のこの一節をとくに好んだといわれています。

奈良絵本とは、挿絵入りで書写された御伽草子です。御伽草子とは、室町時代から江戸時代前期に流行した短編の物語集で、現在のところ、約 400 編の作品が現存しています。作者はほとんど不明です。

それらの中には、「浦島太郎」や「一寸法師」等、今日まで読み継がれている作品もあります。

清和天皇の子孫である多田満仲は、源の姓を初めていただき、武士としては並ぶ者のない人物でした。

この満仲は、末の子の美女御前を寺に修行に出します。しかし、美女御前は修行をしないで遊んでばかり……

2) 「俳家先哲墨蹟鑑」

慶応 4 年、夢酔園なる人物の落成にあわせて製作した、短冊張り合わせ帳(手鑑)。其角、嵐雪、去来など江戸期の俳人の短冊 4 4 点を紹介しています。

ふけ行や雪に影おく雪の松
(去来)



3) 「多田満中」

満中は、幸若舞曲を代表する一曲です。現存諸本は語り本系と読み本系のものに分けられますが、本絵巻は読み本系に属する一伝本と考えられます。読み本系のものには、奈良絵本の体裁のものが十本近く知られていますが、絵巻は本絵巻以外になく、成立は江戸中期中頃とされています。

怒った満仲は、家来の仲光に美女御前の殺害を命じますが、・・・

続きは 愛媛大学附属図書館電子図書館をご覧ください。翻刻，現代語訳，テキスト版があります。

4)「堀内文庫」

堀内文庫は、松山市興居島の海運業及び庄屋であった堀内家三代の近世国文学資料です。親子三代（明和4～明治16年）にわたる源氏物語研究を中心に安土桃山から明治初期までの国学、詠草などの写本・刊本があり、伊予地方における中・近世文学研究の水準の高さを示す貴重な郷土資料です。

特に、本文庫の『葵の二葉』『底の玉藻』は、昌郷により始められ匡平が集大成した源氏物語研究です。電子図書館では、目録を公開しています。

『葵の二葉』 源氏物語作中の人物を、光源氏と頭中将，夕霧と柏木，匂宮と薫，空蝉と浮舟，六条御息所と夕霧といった具合に，二人を対にして論評したもので，作品名の「葵の二葉」もそこからの命名です。



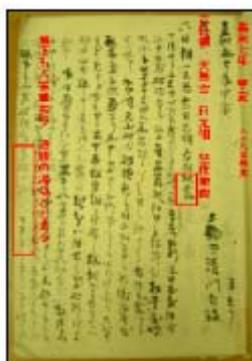
【葵の二葉 十八巻】

5)「米山日記」

嘉永元年から明治30年までの、伊予松山の神官・書家、三輪田米山の日記。安政の大地震についての記述などの自然現象から、食物、衣服、産業、生活形態まで、幕末から明治にかけての地方史を知る上での第一級の資料です。

米山は、奔放自在な書を残した書家としても有名です。電子図書館では、彼の年譜及び202冊の目録を公開しています。

【安政の大地震（1854）】



六日朝
一天無雲
日光明
昼夜地震
城下も人家破損多
道後の湯などとまる

6)「鈴鹿文庫」

ト部神道家の鈴鹿三七氏（京都市左京区）の旧蔵書。鈴鹿家が中世以降の神道家であるために蔵書の中心は神道関係ですが、物語、随筆、日記類を含んでおり、国学関係の書写本、板本、複製本、活字本、軸物、箱物等7,432点からなります。



【鈴鹿文庫トップページ】

7)「日次紀事」



京都を中心に記した年中行事の解説書。日々の行事を節序・神事・公事・

人事・忌日・法会・開帳の順に表し、閏月や臨時の行事は年末に収めています。行事の実情・風俗・人情・言語などを多彩に盛り込んだ史料です。

8)「鈴鹿本大和物語」

大和物語の流布本は二条家系統であるのに対して、本書は異本系の一本にあたり、天理図書館蔵の「御巫本」とごく近い関係にあることが認められています。正確な書写年代は不明で、室町中期以後の書写にかかるものとみられています。

（文責 学術情報課専門役 松本 秀毅）

学術情報リテラシーシリーズ（第3回）

図書探索のためのツール紹介（愛媛県内図書館 OPAC）

図書を探す順序は、（1）愛媛大学図書館 OPAC、（2）県内図書館 OPAC、（3）Webcat Plus の順で検索してください。

愛媛県内図書館 OPAC 道順 「図書館ホームページ」の「リンク集」 → 「県内・国内の所蔵を調べる」 → 「愛媛県内図書館紹介・リンク集」(愛媛県立図書館リンク集)。

「愛媛県内図書館紹介・リンク集」で下記の図書館の蔵書検索ができます。

● 愛媛県内大学・短大図書館リンク（OPAC を利用できる図書館）

- 松山大学図書館
- 聖カタリナ大学附属図書館
- 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学図書館
- 愛媛県立医療技術大学図書館・愛媛県立医療技術短期大学図書館
- 新居浜工業高等専門学校図書館

● 愛媛県内公共図書館一覧（OPAC を利用できる図書館）

- 愛媛県立図書館
- 松山市立中央図書館
- 今治市立中央図書館
- 宇和島市立中央図書館
- 八幡浜市立保内図書館
- 新居浜市立別子銅山記念図書館
- 西条市立西条図書館
- 西条市立東予図書館
- 四国中央市川之江図書館
- 四国中央市三島図書館
- 四国中央市土居図書館
- 東温市立図書館
- 久万高原町立図書館
- 内子町図書情報館



【愛媛県立図書館蔵書検索画面】

蔵書約46万冊(平成16年度末)の検索ができます。

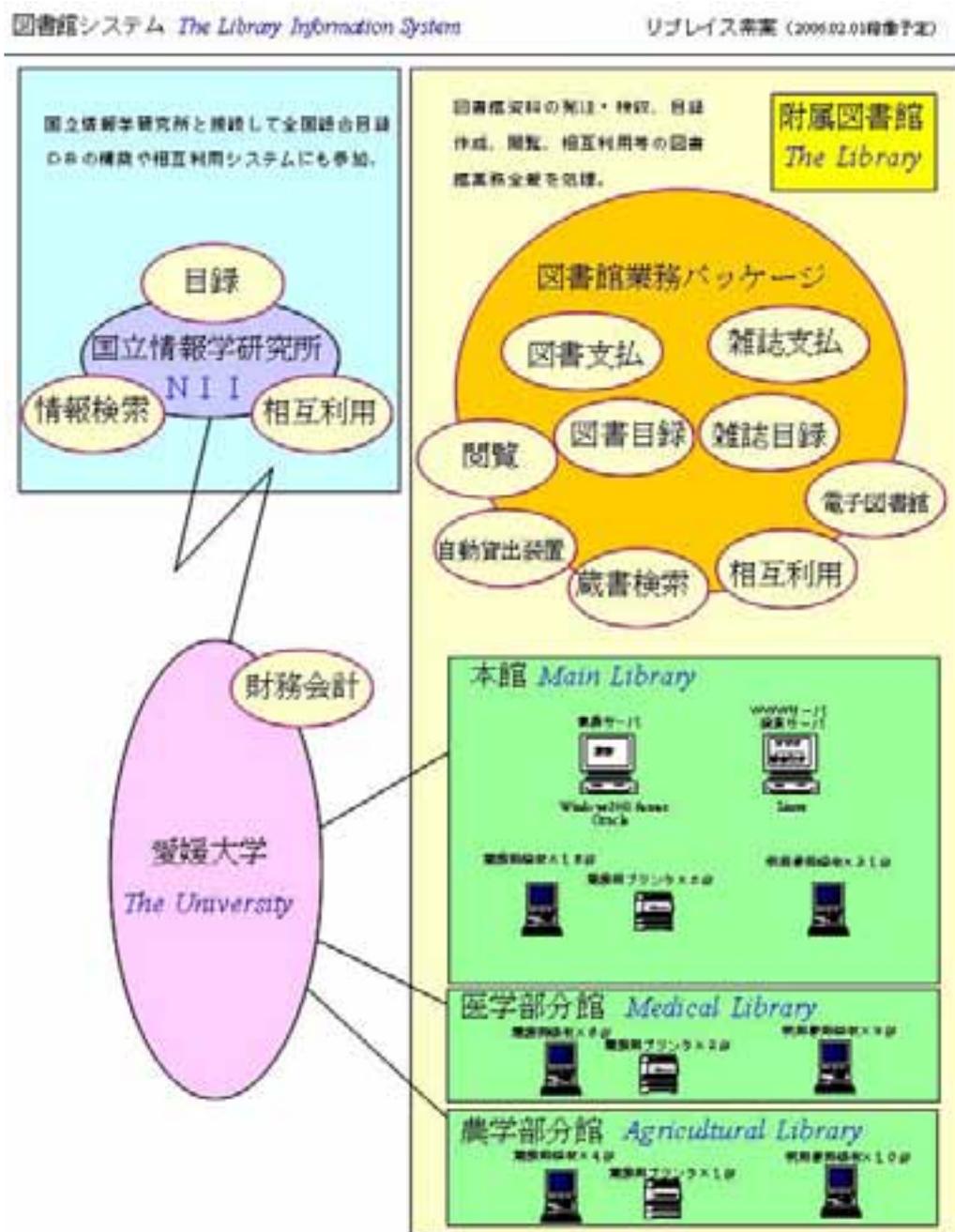
雑誌については、愛媛県内公共図書館所蔵逐次刊行物総合目録があります。

図書館システム更新のお知らせ

附属図書館では、平成18年2月1日から新システム（NTT データ九州製「図書館情報システム NALIS」）が導入されます。従来の図書館業務全般の処理及び国立情報学研究所と接続した全国総合目録DBの構築にも参加する一方利用者サービスの向上に向けて更新いたします。

主な改善点は次のとおりです。

- 1) 利用者用館内端末の増加
- 2) 検索速度の向上
- 3) 県立図書館、他大学図書館との横断検索



医学部分館からのお知らせ

【情報検索講座のお知らせ】

情報検索講座を2本立てで実施しております。

1. 「臨床・研究に役立つ情報検索の手引」
研修医・院生（看護学専攻を含む）・看護師等の方を対象に、7項目からご自由に選択して受講することができます。看護学科では、大学院生の指導のために先生からご依頼を受けるケースもございます。場所・時間などのご希望に応じておりますのでご相談ください。

実施項目：

- (1) DB 検索(1)医学系
- (2) DB 検索(2)看護学系
- (3) 図書館 Web サービス案内
- (4) 医学部分館ホームページ・フリーDB 案内
- (5) 学内所蔵検索・電子ジャーナル検索
- (6) 病院教職員の方への図書館利用案内
- (7) 文献入手の流れ+引用文献の見方

お申込は図書館医学部分館ホームページから、または電話・メール・直接カウンターでおたずねください。

2. 「学部生のための文献検索講座」

卒前臨床前後の医学科・看護研究の看護学科の学部生を対象に、毎日昼休み(12:30-13:00)

に実施しております。PubMed・医中誌 Web の基本的な使用方法、電子ジャーナルの使い方、OPAC の見方について、短時間でポイントをお伝えします。

どうぞご利用ください。

いずれもお1人からお申込いただけます。

共通連絡先：

医学部分館情報サービスチーム

電話 089-960-5483 (ダイヤルイン)

メール medlib2f@lib.ehime-u.ac.jp

【”メディカルオンライン”

トライアル実施】

メディカルオンラインは、株式会社メテオインターゲートによる国内発行の医学（関連領域を含む）雑誌のデータベースです。収録誌は約450誌、バックファイルは最新から約8年分です。

医学部分館では、12月より2ヶ月間の予定でトライアルを実施いたします。トライアル期間中は、収録誌の記事がオンラインで全文利用できます。ぜひご利用ください。

ご利用方法は図書館トップページからご案内いたしております。詳しくは医学部分館カウンターにお問い合わせください。

インターンシップ研修

愛媛大学では、人材育成の核となる大学が「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う」場としてインターンシップ研修を実施しています。

附属図書館においても2名の学生を受入れて、研修を行いました。

1) 研修受入者

愛媛大学法文学部人文学科3年生(女)

松山大学経済学部経済学科3年(女)

2) 研修期間

平成17年8月29日～9月9日

3) 内容

- ・ 図書館システム、操作演習
- ・ 図書受入、目録業務
- ・ 雑誌業務
- ・ 図書の貸出・返却、配架
- ・ レファレンス・情報検索

4) アンケート

Q 研修を終えて、現在の気持ちをお聞かせください

A 今まで聞いているだけでイメージがつかめなかった仕事、やっと分かるようになりました。また研修を通して現

在の司書の仕事というものを体験でき本当に来てよかったと思います。

- A 2週間という短い期間でしたが、インターンシップで来られて本当によかったと感じています。職員の方がとてもよくしてくれて、リラックスできました。市民や学生の意見が積極的に取り入れられて図書館を改善している姿勢がとてもよかったです。これからもお仕事頑張ってください。

Q 愛媛大学附属図書館の印象は実習前と実習後では変わりましたか？

- A 実習前はほとんど来たことがなかったのですが、図書館に入りやすい印象になりました。
- A 変わりました！！ 図書の貸出以外に図書館にいる人は何をしているんだろう？と思っていましたが、様々な仕事があり、努力する職場だということが分かりました。印象値がかなりアップしました。

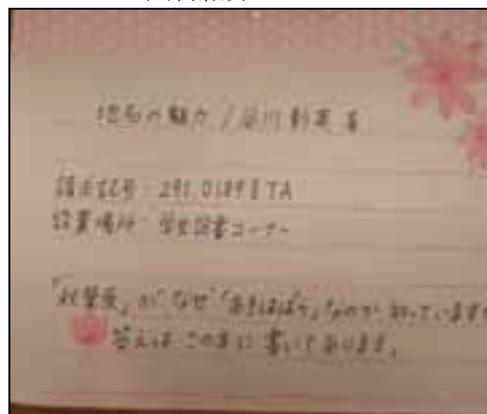
図書館サポーター ～活動紹介～

6月から、法文学部学生さんお二人に「図書館サポーター」として図書館の業務をお手伝いいただいております。お二人の活動を簡単に紹介します。この紹介で、皆さんが図書館を身近な存在と感じていただければ幸いです。

- サポーターの「おすすめ本」紹介
皆さん方に読んでもらいたい図書の簡単な紹介コピーを作成しています。
- 資料集め講座のお手伝い
図書館のOPACの使い方や、文献データベース・新聞記事データベースなどの使い方を学生の皆さんに習得してもらう講座のお手伝いです。
- 返却図書を所定の書架へ戻してもらっています。 など、など



図書紹介コピー



附属図書館委員会

○平成17年度第2回附属図書館委員会

日時 平成17年10月21日(金)

場所 附属図書館視聴覚室

議事

【報告事項】

1. 大学評価基準（機関別認証評価）にかかる自己点検評価の実施について
2. 第52回国立大学図書館協会総会について
3. 平成17年度愛媛地区大学図書館協議会総会について
4. 学生用図書の整備について
5. 図書館利用ガイダンス（レポート・論文のための資料集め講座）について

6. 新図書館システムについて
 7. 附属図書館 2005 年（開学記念日事業）企画展について
 8. 分館近況報告
 9. その他
 - 1) スタディ・ヘルプ・デスクについて
 - 2) インターンシップ研修について
 - 3) その他
- 【協議事項】
1. 平成 18 年度電子ジャーナルの整備について
 2. 愛媛大学附属図書館寄贈資料受入基準（案）について
 3. 愛媛大学附属図書館資料受入基準（案）について
 4. その他

○平成 17 年度第 3 回附属図書館委員会

日時 平成 17 年 11 月 28 日（金）

場所 附属図書館視聴覚室

議事

【報告事項】

1. OUP(Oxford University Press)電子ジャーナルコンソーシアムへの参加及び Springer バックファイルの導入について

2. その他

【協議事項】

1. 城北地区「キャンパスサービスセンター」（仮称）設置計画・附属図書館（本館）ビル改築計画について（案）
2. 図書の除籍について（案）
3. その他

図書館日誌（会議, 研修）

- | | | | |
|----------------------|--|--------------------|---|
| 8 月 19 日 | 第 42 回愛媛県図書館講習会（総合情報メディアホール） | 10 月 31 日 | 平成 17 年度第 3 回農学部分館運営委員会 |
| 8 月 25 日 | 中四国コンソーシアム会議（広島大）松本資料整備 TL 出席 | 11 月 1 日 | 平成 17 年度第 2 回社会貢献 WG |
| 8 月 25 日
～26 日 | 名古屋大学電子図書館国際会議（名古屋大）宮部電子情報チーム部員出席 | 11 月 11 日 | 附属図書館 2005 年企画展
～17 日 |
| 8 月 29 日
～9 月 9 日 | 愛媛大学インターンシップ研修プログラム | 11 月 11 日 | 平成 17 年度中国四国地区国立大学図書館所管部課長会議（岡山大）内山学術情報課長出席 |
| 10 月 6 日
～7 日 | 国立大学図書館協会中国四国地区協会実務者会議（島根大）植木 TL 出席 | 11 月 14 日
～16 日 | 医学図書館研究会・継続教育コース（東京医科歯科大）土出部員出席 |
| 10 月 13 日 | 館報編集委員会（図書館だより第 79 号）平成 17 年度第 2 回図書館情報リテラシーWG | 11 月 16 日
～17 日 | 第 18 回国立大学図書館協会シンポジウム西地区（岡山大）筒井部員出席 |
| 10 月 20 日
～21 日 | 第 46 回中国四国地区大学図書館研究集会（香川大）米田 SL 出席 | 11 月 16 日
～18 日 | 平成 17 年度学術情報リテラシー教育担当者研修（大阪大）三浦部員出席 |
| 10 月 21 日 | 附属図書館自己点検・評価委員会 | 11 月 17 日
～18 日 | 日本医学図書館協会中国四国部会総会（川崎医大）星川 TL 出席 |
| 10 月 21 日 | 平成 17 年度第 2 回附属図書館委員会 | 12 月 9 日 | 平成 17 年度第 1 回附属図書館将来計画委員会 |